

毎日おまんこシテくれる  
オナホアイドルと同棲しませんか？

※一部本編と異なる場合があります

トラック1

「ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん」

「ふああ～～～～ん～～む」やむ」や～～ん、  
んん～～～～わう朝あ～～～～わうわう～～まだ墨  
い、土～～～～り～～～～」

「プロデューサーさんばつと……」

「あ、えぐぐぐぐ プロトマークーかいたあ  
はあ～～～ 今日も寝顔可愛いなあ～～」

「昨日も夜遅くまでお仕事してたもんね……いつも

ପ୍ରକାଶକ

「ちゅ～、ちゅ～……ちゅ～、うひ、あれ? ね耳に  
チコウしても起もなー。ちゅひ、ちゅひ……  
ちゅひ～、耳たぶに……ちゅ～、ちゅ、ちゅ～」

「耳の中にもお……ちゅ～、……ちゅ～ んん……  
まだ反応なし……んん……ちゅひ、ちゅひ……、  
むむ～……起きなーなー……」

「「つもなら」」れで起きてくれるのに……今日は一段と眠りが深いかも……

「毎日いっぱい頑張ってくれてるから、もう少し寝かせてあげたいな……でも、ずっとってわけにはいかないし」

「せめて気持ち良く起きれるように、私、頑張りますね♪ プロデューサーさん♪」

「ん、ショ♪ ん、ショ♪」

「わあ♪ やっぱりおちんぽ、すつゞく元気になつてゐ♪ 朝はいつもやうですもんね♪ はあ♪ へ 大きくて逞しく♪ 私の大好きなおちんぽお♪」

「パンツ越しでも……すん♪ すんすん♪ すううへへへ はあへへへへ はうううう♪ おちんぽの匂いだけでエッチな気分になつちやうう♪」

「こんな大きいおちんぽが、いつもここに……おまんこに入つてくるなんて……意識するだけで濡れちゃうよお♪」

「あ、おちんぽパンツの中で窮屈やう♪ プロデューカーさんったら、めうべは我慢してたのかな?」

「なら私が樂にしてあげないと♪ いひやつてゞボンの上から♪ それ♪ おちんぽもみもみ♪ おちんぽもみもみ♪」

「えくへへ♪ セつかく同棲までしてるんだし、たまには紗綾に甘えてワガママ言つてくれてもいいんですよ♪」

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

「朝でも、お昼でも、もちろん夜でも、私はいつもエッチ大歓迎なんですか？」

紗綾

「まあでも、プロデューカーさんは照れ屋ですもんね♪ 仕方ないから、今田も私がおちんぽのお世話をあげちゃいます♪」

紗綾

「まずはおちんぽを出しちゃう♪」

紗綾

「わあ♪ おちんぽや♪、おはよう♪わよ♪ます♪  
今日もおつきよ♪、蒸れてくやべり♪、えへへ  
へへ 可愛いです♪、んくちゅう♪、ちゅ、  
ちゅう♪、べる、れる、れるつ、れる、  
るれり、ちゅ♪」

紗綾

「あううう♪ 朝一番のムレムレちんぽにキスし  
ちゃった♪ はふうう♪、ピクピクつてしてえ♪  
もうとして欲しいんですか？ 欲張りさんです  
ね♪♪」

紗綾

「んくちゅ♪、れる、れる、ぴちゅう、  
……ちゅう、れる、れる、んく♪」

紗綾

「そんな欲張りなおちんぽは♪、先っぽの方を、  
ちゅう♪、舐めてあげますね♪、ん……ちゅ、ア  
イドルの舌で左右にい♪、れ、るれれれれれれ  
ろれろれろお♪、れ、れれれれれれれれれれ  
れろお♪」

紗綾

「んう？ ん、れへんへ じゅるるへ ふふへ お  
ちんぽから透明なお汁が出てきましたへ あ～ん  
♪ ちゅへ じゅるるへ じゅるつへ ん、いい  
ですよへ 全部飲んであげますから、我慢しない  
で……んへ、ちゅ……ちゅるつ……じゅりゅりゅ  
♪ じゅるへ ちゅ……ん、全部出してください  
ねへ チュルツ、ちゅひつ……ちゅう……へ」

紗綾

「はあへ んんへ パンシの中で蒸れてたから、  
すつ」く濃くつて……臭くつて……ん、おちんぽ  
に付いたチンカスもおへ じゅるるへー じゅ  
りゅ！ ん、んんへ おじしゃべれへ 「れえへ  
いくりども舐められまうへ ちゅへ ぴ  
ちやつ……ぴちや、ちゅふ、ふちゅ……んつ  
んつ」

紗綾

「おちんぽの竿の方にも、舌を伸ばしてへ」

紗綾

「れへへへ れるれるへ れるれるれるるへ れ  
りゅへ ちゅへ ぺちやつ、ぴちやつ……ちゅ、  
ちゅうつ……れりつ…… ちゅつふつちゅふ、  
くつかなつ。はあつ……へ 勃起おちんぽおへ  
おじひいれすうへ んへちゅへ れへへれ  
る……れるへ……ふつちゅつ、ぴちやつ、ぴ  
ちや、ぴちや……」

紗綾

「あは♪ おちんぽひゅうとお漏らししてる♪  
眠ってても、ちゃんと感じてくれるんですね…  
…ああん♪ 可愛い♪ とっても可愛いよお♪  
はあ、もひとも〜〜ヒとしてあげちゃいます  
♪」

紗綾

「はむり♪ ジョル… ジョル… んちゅ♪  
れる、れるれる… れる♪、レロ…♪、ピ  
ちゃり、ぴちゃ、ぴちゃ… フリ…♪、おちん  
ぽおじしい♪ 大好きですう♪ おちんぽ♪ お  
ちんぽお♪」

紗綾

「んっ、プロテューサーさん♪、えつちな夢見てま  
すか？ 私とのHシチな夢、見てほひいれす…  
…つれろ… れる♪、ぴちゃ♪、ぴちゃ♪、く  
ちゅ…」

紗綾

「れうろれろ♪、んちゅ♪、ちゅ、ちゅぱ♪、れろ  
れろ♪、ん、」までも起きないなり…も  
うちよつとだけ大胆におちんぽ咥えておしゃぶり  
しちやつても大丈夫かな？ フフ♪、ではおちん  
ぽ失礼しまーす♪」

紗綾

「はううむ♪、んちゅ♪、じゅふつ！、ん、ちゅ  
♪、ちゅぱつ！、ん、ん、んん♪、ん、れろれろ  
…、じゅぱぱつ！、ん♪、私のおくひ、あつたか  
いれふか？、ん、ん、ん、ん♪」

紗綾

「ん、む……あむり……ぐわむり……ぐわむりぐつ  
ちゅうぐちゅう！ すちゅうすちゅう！ ジゅ  
るる… ジゅふつ！ ん、くちゅつ……ぐつ  
ちゅう……れろれろれろ……ぐつちゅう！  
はつ、はあ、はあ♪」

紗綾

「ああ……ひゅ！」、「おちんぽおふ、お口に入りき  
らないれふふ、ぢゅるり……ぢゅるり、じゅ  
るり！ ぐつちゅう！ ぬちゅう！ ぬぽつ、  
ぬつぶつ、ぐつちゅう……んんんん……」

紗綾

「おしゃぶりひてるだけで、わたひ、へんな気分に  
なつてふん、れもおふ、プロテューサーひやん  
のおちんぽが、えつちな形してるのがいけないん  
れふよ？ いつもわたひを誘惑ひてえふ」

紗綾

「ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、  
ひ、アイドルなのにい、んじゅつ！ ジゅ  
りゅつ！ れろれろ……れろれろれろふ、  
ちゅふ、じゅふつ！ ん、朝から、おちんぽ屋え  
て、おしゃぶりして……ん、ん、いけないのにい  
ふ」

紗綾

「んふつ！ ん、ん、ん、じゅりゅふ、れるれるふ  
じゅるふ、じゅるるふ、ん、ふはつ！  
はあ、はあ……」めんなさい、えつちなアイドル  
で！「めんなさい……でも、我慢できないのおふ  
ん、はむつ……ん、ん！ すちゅう！ ぬつ  
ちゅう、ぬつちゅう、ぬちゅう……そつうふ」

紗綾

「はあ、はあ、ああ、野原しげおちんぽね  
くわいこチャンカスおちんぽお、んちゅ、  
じゅうをじゅうを、んん、夢舟になつちやう  
おちんぽお、れるれら、れら……れらお！  
ずちゅー！ ぐわわ、ぐわわ、ぐわわー、じゅ  
るるるるー！」

紗綾

「んー？ ん、ん、ん、んん！ ふはー、はあ、  
はあ……おちんぽビクビクして……おちんぽミル  
ク出したいのがな、ん、れー、れー、れー、れー、  
れー、れー、れー、れー、れー、れー、れー、れー、  
……、じゅるー！ じゅるー！ じゅるー！ じゅるー  
れー、れー、れー、れー、れー、れー、れー、れー、  
ん——、ふはー、はあ、はあ！」

紗綾

「わあ、プロトコーナーわー、いーじですか  
のお口に、アイドルのお口に、おちんぽ  
ぴしゃりぴしゃ、おちんぽぴしゃ、ぴしゃ  
る、ざわざわ、ざわざわ、ざわざわ、ざわざわ  
ー！」

紗綾

「んー？ んむー、ん、むー、ん  
ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん  
むー、じゅふー、じゅるー、じゅるー、ん、  
ぶせー、い、じ、じ、じ、じ、じ、じ、んにたくれ  
ん……んむー、ー！」

紗綾

「んぶつ……次々口の中に……いつぶあい……  
じゅる！……じゅりゅりゅ！……んぶうう！……ん、  
しゅ」「じじ……！……おひんぼみりゅくしゅ」「  
いい！……あつ、あつ、んん！？……まだ出て！  
やつ……れやつ……？……ん、ツンツン……！」

紗綾

「んん！……や、零れちゃやつ！……ん、んん！……全部  
飲むのお♪……はふ♪……「」くつ！……「」くつ！……ん、  
「」くつ！……「」くつ！……「」くつ！……「」くつ！……  
ん、んん……♪……ふはあつ！……はあ、はあ♪」

紗綾

「あうう♪……あうあうう♪……おちんぽミルクネバ  
ネバですよお♪……んん♪……お口が精液の香りで  
いっぱい♪……ふふ、驚くだらうなあ♪……すやすや  
寝てる間にアイドルのお口にぴゅつぴゅしちやつ  
たなんて♪」

紗綾

「でも、いいんですよ？……恋人同士なんですから♪  
すうううう……はああうう♪……」のクセの強い  
おちんぽの臭い♪……色も濃くつて♪……ああ♪  
真っ白なのが出ましたね♪……健康な証です♪」

紗綾

「んつ、さつき飲みきれなかつた分が、まだお口の  
中に絡んで……えう……うまく喋れません。せつ  
かくプロゲーラーサーさんが出してくれた精液です  
から……べつて吐き出しちゃうのはもつたいない  
ですし……大好きな人の、赤ちゃんの種……」

紗綾

「だから……感謝しながら、いただきますね。ああ♪ プロテューサーさん……好きです、大好きです……愛します♪ つて、あ♪ ピッセなら♪」  
ぐいぐい飲む音、聞かせてあげます♪

紗綾

「では、ん♪ うん♪、うん♪、うん♪、うん♪、  
ん♪、うん♪、うん♪、うん♪、うん♪、うん♪、  
……おじしいです♪、うの味、やみつきになつ  
ちゃうましゅう♪、せふう♪、ん、うん♪、うん♪、  
うん♪、うん♪、せふう♪、おちんぽミルク、うん♪  
やつれもどした♪」

紗綾

「……うん、あ、起しきやしましたか？ ふふ、  
おはよ♪わくわく♪」

紗綾

「はい♪ あなたの紗綾ですよ♪ 起きたのが遅  
かったので先におちんぽじただいかやしました  
♪」

紗綾

「ふえ？ そんな！ プロテューサーさんのおちん  
ぽは汚くなんかないですよ！ ひとつも可愛くて  
綺麗で、それにおいしいですから♪ もひとつおち  
んぽに自信持つてください♪」

紗綾

「うん、えへへ♪ 朝から何言ひてるんでしよう♪  
恥ずかしくなつてきちゃいました♪ でも、こ  
れだけは言わせてくださいね♪」

紗綾

「プロト ハーナーねえ、大好きですか、世界で一番、だい、だい、だい、だい、だい、だあ、いす  
あへ」

「えぐくへへ 今田わいわぱいへ ラブリーラブ 全開で頑張りましょーね♪」

「すう、はあ、すう、はあ、」

「あ、プロデューサーさん！えへへ……見られちゃいましたね。はい。深呼吸、してました。やっぱり緊張しちゃってるみたいですね」

「生まれて初めての単独ドームライブ……私なんか一人でドームを埋めちゃうなんて、今でも信じられませんよ」

「初めてのグラビア撮影、初めてのチエキ会、握手会にテレビ出演。今まで色んな経験をしてきましたけど、やっぱりドームは一番の夢です。アイドルを目指すと決めた時からの夢」

「あ、えへへ、大丈夫ですよ？ 緊張しますけど、心配はしません。だって、いつだってプロデューサーさんが私のそばに、隣にいてくれますから♪」

「今日だって、とびっきり素敵な思い出になるんだろうなって予感しています。いえ、予感じゃなくて確信ですね♪ 私はプロデューサーさんが見ててくれるな♪」までも輝けます♪

「ただ……緊張はしちゃいますから、もう少しだけ、ほんの少しだけ勇気を分けて欲しいんです。ダメ、ですか？」

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

「はふう、あつたか～い♪ んつ……まだ、開演まで時間がありますよね？ 今の内にプロデュー  
サーさんのぬくもりを感じさせてください」

紗綾

「んん♪ すりすり♪♪ すりすり♪♪ えくへ～♪ 全身にプロデューナーさんの匂いを移しておかなきや♪ すりすり♪♪ すりすり♪♪」

紗綾

「プロデューナーさん♪ 心臓、ドキドキしますよ～。つい、きっと私もドキドキしかけてますよね……あううう♪ 恥ずかしいですか？」

紗綾

「大好きな人とぴったりくつこないと……興奮して、気持ちが抑えきれなくなっちゃいます。好き、大好きって……心臓が高鳴って、全身が花開くみたいで」

紗綾

「プロデューナーさんが欲しいって思っちゃう。もつとプロデューナーさんでいいぱいになりました」と思っちゃいます♪」

紗綾

「だからですね？ キス、してもいいですか？ したいです、ちゅって。いっぽいキス♪」

紗綾

「んつ、ちゅつ……チュウ、ちゅ……ちゅふつ……♪ はあ♪ キス嬉しいです♪ もつとも、ん、ちゅつ、ちゅつ、んん♪ んあ……もつとください、キスう♪ もつとお♪」

紗綾

「ん、ちゅ～、れる……れる……んちゅ～、あむ、  
ちゅ～ちゅ～、ぴちゅ～……プロデューサーひや  
ん……虹、出ひでえ～、あむ～、ちゅ～、じゅる  
♪ じゅるるる～、んふ～！ はああ……おじひ  
いれす～」

紗綾  
「しゅき……ちゅき～～、えつちなキス～～、もつ  
ろお～、ちゅ～、れる、れる、れるれる……れろ  
……れる。くちゅ～、チュツ、ちゅう～……  
ちゅ～、ちゅ～、チユ～……つ」

紗綾  
「ん……ふあ～……えくく～、涎が垂れちやじまし  
たね。れる、じゅるる～、ん、「」くつ～、「」くつ  
♪ はああ～～、とつてもエッチで厭りしへ  
て、おいじじ～」

紗綾

「はあ、はあ～～～、んん～、本番前なのにい～  
こんな、おいしい涎飲まされたらあ～～～、んん  
♪ おまんこ火照つてえ～、おちんぽ欲しくなつ  
ちゃいますよお～」

紗綾

「もうと近づきたい、もうと触れ合いたい。一つに  
なりたい～、ね、プロデューサーさん～、「の衣  
装、」うやつて指でズラせば……」

紗綾

「できちやうんですよ？ えつち～」

紗綾

「もちろん、アイドルが本番前になんて、イケナイ  
事ですけど……でも、こんな火照った体じゃ、お  
歌もダンスも上手にできませんから……」

紗綾

「今だけ。今だけは紗綾を独り占めしてください♪  
大好きな人のおちんぽで、紗綾のおまんこ、ぐ  
ちゅ濡れの欲しがりおまんこ♪、満たしてください♪」

紗綾

「あああっ……そ、やうです、そーです……あっ、  
私のおまんこ」つ……わう準備、できてますから♪  
おまんこ♪トロシトロに熟してますからあ♪そ  
のまま、アイドルのちりあやなおまんこ穴に、  
おつきなおちんぽ来てください♪」

紗綾

「早くうへ あ！ やうです、そのまま！  
んつー？ あ、あ、あ、ああ♪ おちんぽ来ます  
♪ おちんぽ来ちゃいまう♪ あ、あ、あ、ん  
あんつ♪ やつ♪ あ、ああつ♪ 入つ、  
たあ♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ あつ、う、う♪ んへ♪ えへ  
へ、お腹がおちんぽでじつぱうじ♪ う♪  
はふう♪」

紗綾

「おちんぽお♪ 勃起おちんぽお、紗綾のおまんこ  
に来てえ♪ ああ、す！」♪ですう♪ おまんこ  
気持ちいい♪ 気持ちいいよお♪」

紗綾

「ん、んああ♪ 記念すべき日にプロデューサーさ  
んと生えつちい♪ ん、ふえ？ えへへ♪ は  
い、もちろんゴムなんていりませんよ♪ こんな  
大切なエッチにゴムなんて無駄ですよ♪」

紗綾

「それに、んん♪ ライブ中にはプロデューサーさん  
の事、感じていたいですから♪」のままねまん  
にに躊躇出して、ライブ中でも半面プロデ  
ューサーさんの事、感じられてください♪」

紗綾

「ひゃんっ！？ やつ！ もやん♪ せう♪ い  
きなり腰、激しくて♪ んひや♪ あ、あ、ああ  
♪ ぐちゅ♪ ぐちゅうてえ♪ おまん♪」かき回  
されてえ♪ あ、やあ♪ もつとお♪ もつとく  
ださじゅ♪ おちんぽお♪ もつとお♪」

紗綾

「んん、ふっ、ふ、あ……あ、あ、あん！ あつ…  
…♪ だ、だめえ♪ おひがな声でちやう♪」

紗綾

「あ、あ、あ、あん♪ ！」、「お♪ 楽屋な  
にい♪ 外に人がいるのにい♪ ああ♪ だめ、  
ダメダメダメダメえ♪ 声出ちやう♪ う、  
うう♪ おちんぽ気持ち良くて……んん♪ 我  
慢できない！ んああっ、ああっ、ああ、ん  
んっ！」

紗綾

「はあ、はあ♪ んん！ ち、違いますう！ 紗綾  
がエッチなんじゃなく、つてえ……ん、ああ  
んっ♪ プロデューサーさんがエッチ、上手すぎ  
るんですけど！ う、上手すぎてえ♪ ああ、  
ああ、んあああつ！」

紗綾

「う、嘘みたいに感じちゃつて……ひやわあつ！  
んあ♪ あ、ああん♪ セリきからずーーと、細  
かくイツてるんですけど！ おまんこずーーとイツて  
♪ んああ♪ んなの、声、漏れちゃう♪  
う、漏れちゃいます♪」

紗綾

「ああ♪ おちんぽお♪ おちんぽおちんぽお♪  
プロトユーナーさんのおちんぽ好きい♪ おちん  
ぽ大好きい♪ ん、んん♪ んあ♪ あ、あ、  
ああ♪ 大好きな人のおちんぽお♪ すり「へ氣  
持ちいいですう♪」

紗綾

「んあつー？ は、ひやうううー？ お、おまん  
♪ お♪ や、やあ♪ おまん」のヒダヒダがにゅ  
るにゅる絡みついでえ！ ん、んんんん！ ん  
ああ！ あ、あ、あ、つあああつー やつー ダ  
メですつ！ おちんぽ欲しがつてる♪ おまんこ  
がおちんぽオネダリしちゃつてます♪」

紗綾

「やつー！ は、はひい♪ お、おお♪ おちん  
ぽ、そんなに激しく動いたらあ♪ んあああつ！  
わ、私い……ひとたまりもありませんつー  
んううつー！」

紗綾

紗綾

「イッ……イッ、ちやうりゅう！ いつぱい、いつぱ  
い！ 大好きなプロデューサーさんの、大好き  
なおちんぽでえ、あ、あつ！ イッちやう！  
いつちやいますよお！」

紗綾

「ライブ前なのにい、皆のアイドルなのにい、  
本氣でイッちやいますう、下品に股広げながら  
アイドルアクメきぬちやうますう！」

紗綾

「お、おおお、お、おお、いく……、  
く、イク、おちんぽでイグ！ おちんぽ  
でイッひやうう！ んああ！ 好き、好き好き！  
プロデューサーさん好きいい！ おちんぽ大  
好きいい！…」

紗綾

「ンッ…、んぐぐ！ 来ちやう… おつきじの  
来る、ぐるう！ イッ…、いく！ おま  
んこイク！ アイドルおまんこイッちやう  
うううう！ んああああ、お、お、お、お、お  
♪ イグイグイグイグ！ イッグ、ううう…」

紗綾

「ひやわああ！ あ、あ、あ、ああ！ お、  
おまんこイッちまひゅう！ お、お、お、お、  
お、お、おまんこおお、おまんこイッきゅうう、  
おまんこおお、おまんこや、あ、も、も、  
ひいじれしなううう、んあ、あ、あああ…♪  
お、お、おおお、」

紗綾

「はあ、はあ・はあ、はあ、はあ・はひゅうう♪  
う、ううう……♪」、「めんなんやい・今のは、  
さ、流石に声が大きすぎましたあ……だ、大丈夫  
でしょうか? 誰にも、ん、聞こえてません、よ  
ね?」

「はあ、はあ……ん、誰も来ない……かな……?  
はああ〜〜良かつたあ〜〜えへへ♪ これで、  
まだまだ続けられますね♪」

「え? そりやそうですよ。だつて、まだおまんこ  
に膣中出ししても、ひつてないんですから♪ 私の  
お腹がおちんぽミルクでたぶたぶになるまでセッ  
クスしても、ひつんです♪」

「それに♪ 私のおまんこ」……今イツたばかりで、  
トロシトロのスケベおまんこになつてますから  
♪

「ほら、見てください♪ 綺麗なピンク色のヒダヒ  
ダがひくひくして、アイドルのおまんこ穴からと  
ろ〜つて、エッチなお汁垂れちゃつて……えへへ  
♪ とってもスケベです♪♪」

「皆が憧れる、現役アイドルの生おまんこ」を独り占  
めできるのは、プロデューサーさんだけの特権で  
すよ♪」

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

「だ・か・ら♪ 今はただ欲望のままに、好きなだけ現役アイドルの発情おまんこ」、犯してください♪」

紗綾

「ライブ中もおちんぽミルクを感じられるように、欲しがりなスケベおまんこを、ぱりぱりザーメンで真っ白に染め上げてください♪」

紗綾

「さあ、プロデューカーさん♪ キスしながらおちんぽ動いて、お口もおまんこも、プロデューサーさんと繋がりながらHッヂしたいです♪」

紗綾

「はっふひ♪ ちゅ♪ んん♪ ちゅ♪ ちゅ、れろれろ……ちゅ♪ んん♪ ん、プロデューサーさん、おちんぽ激ひい♪ ん、んちゅ♪ ジゅふつ！ ん、じゅる……ちゅ♪ ちゅぱ♪ ジゅりゅ♪ ん、ちゅ♪ ちゅ♪」

紗綾

「ふはあ！ はあ、ん♪ んああ♪ お、おまんこ♪ お♪ キスしながらのおまんこセックしゃう♪ んあああ♪ あ、ああ♪ しゃ♪」いれます♪ これえ♪ しゃ♪」「れすよお♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ プ、プロデューカーさん♪ お、おっぱいも触りながら、ん、んん♪ Hッヂして♪ 私のスケベなおっぱい♪ いっぽいもみもみしてください♪」

紗綾

「あ、あああ！！ そ、そんな！ いきなり乳首い  
♪ ん、んんん♪ ひやわつ！ はあ♪ んん  
♪ あ、ああん♪ え、えへへ♪ すつい♪ ハッ  
チですう♪ ハツチい♪ えつちえつちい♪」

紗綾

「でもいいんですう♪ だつてえ♪ 私のおっぱい  
はプロデューサーさんに揉んでもらつ為に大きくなつたんですからあ♪」

紗綾

「だからもつと触つてください♪ もつとお♪  
純派アイドルなのにい♪ 下品に垂れたスケベ  
おっぱい♪ 欲しがりなおっぱい♪ 指が沈  
んど見えなくなるくらい激しく求めてください  
♪」

紗綾

「ひやん♪ やあ♪ プ、プロデューサーさんつたらあ♪ んあ、あ、あ、あ、ああ♪ 赤ちゃんみたいにい♪ やん♪ おっぱい求めてえ♪ ああ♪ 嬉しい♪ 嬉しいですう♪」

紗綾

「もつと来てえ♪ もつとお♪ おっぱいの形変わっちゃうくらい強く揉んでえ♪ 大好きなプロデューサーさんにならいいんですう♪ だつてえ♪ 私のアイドルおっぱいはプロデューサーさんの物なんですからあ♪」

紗綾

「はあ、はあ、ああん、プロデューサーさん  
♪ 好きい♪ すきすきすき♪ ねい  
に夢中になれる可愛じ姿が大好きなんですね♪」

紗綾

「んああ、イイれすう、おっぱい揉まれながら  
おまんこ突かれてえ、ひやわあ！？ ん、やあ  
ん、子宮、刺さりますう、おちんぽ赤  
ちゃんのお部屋に入っちゃいますう♪」

紗綾

「はあ、ん、はあ、プロデューサーさん、キ  
スう、はむ、ちゅ、んちゅ、ちゅ～♪  
♪ ふはあ！ はあ、ん、ああん、お、おまん  
こ♪ お、」のままだとまたいつひやいましゅ  
お、お、おおお、おまんこおおお、おまんこ  
気持ちいい、おまんこ♪イイんですう♪」

紗綾

「や、やらあ、アイドルのイキ顔見られるの恥ず  
かしいれすよお、ん、ん！ んああ、あ、  
あ、ああああ、はあ、はあ……、ん、ん  
みゅうううう……」

紗綾

「はあ、はあ、んん、えへへ、イキ顔恥ずか  
しいですか、お耳の傍に来ちゃいましたあ♪  
ん、あ、やあん♪」

紗綾

「んぐぐ、これなら、んん、どれだけエッチな  
顔しても、大丈夫……って、ひやわあ！？」

紗綾

「あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ！　普、プロ  
デューサーさん！？　だ、ダメ！　「このダ  
メ！　や、やああ！？　は、激ししゃぎて、  
ん、おおへ　お、おまん」壊れましゅ！　壊れ  
ひやこましゅよおお…！」

紗綾

「んあああ…！　お、おまん」おへ　おちんぽ激  
ひいへ　お、お、お、お、お、お、お、お、おへ  
お、お、お、お、お、お、お、お、おおへ　んほおお  
お、おおへ　「ひ、ひなえええ…　アイドルな  
の」おまん　お、おおへ　下品な声ええへ　出  
ひやこましゅ　出ひやこましゅよおおおへ」

紗綾

「お、お、お、お、お、お、おへ　お、お、  
お、お、お、お、おおへ　んああああへ  
普、プロデューサーさん…！　も、もひひねれ  
すううへ　おまん」ひぬええへ　おまん」おおお  
へ　イッひやこましゅううう！　イッひやこま  
しゅ」ひ」ひ」ひ」ひ」ひ」ひ」…！」

紗綾

「んあああんへ　普、プロデューサーさんもおへ  
イ、イキそうれすかあ？　イッひやこましゅなれ  
しゅかあ？　ん、んああへ　い、いいれしゅ  
よおおへ　お、お、おおおへ　おまん」の中  
にいへ　アイドルおまん」の中」へ　こつぱ  
いらひてくだひやい」へ　「のまおへ　一  
杯いいへ　一杯いいへ」

紗綾

「はあ、はあ、んん♪ わ、わたひも、んあああ♪  
イ、イキましゅうう！ イ、イグう！ あ、  
ああ… お、お願ひれしゅう！ プ、プロデュー  
サーさんも一緒にいい… あ、あ、あ、  
あああ… イ、イグウ！ イグイグイグイグ！  
イフグうううううううう…？」

「んひやあああ…」

紗綾

「お、おおお♪ ああ、ひやあああつ…あづい  
♪ おまん♪おお♪ おちんぽみりゅく一杯れえ  
♪ お、おおおお♪ んつ、んんんつ！ は  
ひいじ♪ わかりましゅう…おちんぽ震えてえ  
…あひ♪ 出しゅう、出でらるのにお♪」

紗綾

「はあ、はあ…♪ んん♪ はひ♪♪ そのま  
まあ♪ そのまま奥に出ひでぐだせしゅじ♪  
あ、ああん♪ や、その調子でえ…♪ おちん  
ぽぴゅつぴゅ♪ おちんぽぴゅつぴゅ…♪  
ん…やあん♪ また出たあ♪ おちんぽミ  
ルクう♪ 千宮に直接ひゅつひゅきつます♪」

紗綾

「んん♪ ああ♪ はあ…♪ あ、んああ♪ あ  
うう♪ あうあうう♪ ！」、「んなに沢…え  
くく♪ すう♪」嬉しじゅう♪」

紗綾

「あ…や、ダメ…抜いたら溢れて、出できちゃ  
いますよお♪ もう少しひのまま、おちんぽおま  
んこに入れてください♪ お願いします♪」

紗綾

「はあひ……んん♪ えへへ♪ おまんこタプタプして……ん♪ プロデューサーさんの熱が体の内から感じられて……うん♪ 「れ、すっ！」く安心します♪ 一人じゃないんだって♪ 例えステージ上には私しかいなくとも、「れなら心は一緒だって分かるんですけど♪」

紗綾

「えへへへ♪ こ～んな幸せな気分でライブに臨めるなんて初めてです♪ 絶対に最高なライブになるんだって確信できます♪」

紗綾

「だからプロデューサーさん♪ 今日は私の全部出し切りますから、しっかりと見守ってくださいね♪」

トラック3

「プロデューサーさん……」

「や、やりました！ 私、出来ました！ ちゃんと  
ドームライブ成功させる」とができたあ！」

「やつたあ！ やつたやつたやつた！ やつたあ  
あ……」

「ああ！！ 嬉しい！ 嬉しい嬉しい！ 嬉し  
いですうう！！ プロデューサーさんん！！  
こまでこれたのもプロデューサーさんのおかげで  
す！ プロデューサーさんがないなかつたら絶対こ  
こまで来れません！ 成功出来てません！ 全  
部全部プロデューサーさんのおかげですう  
う！！」

「本当に……！ ほんのとくに！ 嬉しくって！  
幸せで！ んん♪ むわわわわ♪」

「うー、あ、こじで抱き着いちやダメですよね……  
『みんなさー、……で、でも、まだ全然甘え足りな  
いから……』

「あ、あのー、プロデューサーさん……ちょっと  
こちに来てもうつていいですか？ はい。舞台  
袖じゃ他の人の目もありますから」

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

「こっち。こっちです。控室には誰もいませんから……少しだけ。この成功の『褒美』に、少しだけ時聞をください……お願ひします」

紗綾

「はふう……これで一人つきり……ですね♪」

紗綾

「んくくつ！ プロデューサーもあらん！ やりました！ やりましたあ！！」

紗綾

「大成功でした♪！ つて、あつ！ ピ、ピめんなさい！ 私ったら、汁いっぱいかいでるのに思いつきり抱きついちゃって。でも、どうしてでもこの喜びを分かち合いたくて……！」

紗綾

「あのう……感謝を」ぬてキス、してもいいですか？ えへへ♪ ダメつて言つてもしちゃいます。んー♪」

紗綾

「ちゅつ♪ ちゅつ、ちゅつ……ちゅ♪ ああんもう♪ 本当に幸せですか♪ 愛する人と――今までぼつてこれたこと。世界で一番大好きなプロデューサーさんに、――まで連れてきてもうえたこと」

紗綾

「今世界で一番幸せなのって、きっと私達一人ですよね。ああ、まだ胸がとくとくとくって高鳴つてます♪」

紗綾

「ん～ちゅ～、ちゅ、ちゅ～ はあ～♪ プロデ  
ユーサーさん、プロデユーサーさん♪ 好き…  
…スキスキい♪ 大好きい♪ 愛してますう♪」

紗綾

「私の、世界で一番大切な人。ちゅ～ ちゅつ～  
……ん？」

紗綾

「あ、プロデユーサーさん……あのう、おつきぐ  
なってますよ？ その、おちゃんぽが……えへへ♪  
ライブ前、あんなにいっぱいヒッチしたのに♪  
んもう♪ スケベなんですからあ♪」

紗綾

「え？ あ、別に嫌じやないです♪ 私も胸が高  
鳴つて興奮しちゃつてますし♪ 今すぐーーー！」  
ツチしたいです♪」

紗綾

「ただですね？ 今の私ちょっと汗くさいから…  
…つて、ふえ？ 私の汗の匂いがいいんですか？  
はう、はううう♪ ちょっと変態ちっくです  
よお～♪」

紗綾

「う、ひやわあ！？ やつ！ ちょ、フ、プロデ  
ユーサーさん！？ ダ、ダメです！ そんな、脇  
に顔うずめちや……や、あ、あん♪」

紗綾

「ほ、本当にダメですってばあ！ 脇い、今汗だく  
で臭いからあ……！ ん、ひうう！？ クンカク  
ンカつて……あつり……あうあうあうう……  
プロデユーサーさんのスケベえ♪」

紗綾

「ん、はあ、はあ、あん、ペロペロ、んん、  
だめえ、ん、あ、やん、脇汗舐めちや…  
ひや… やん！ ！」これ、ぐすぐつたじのと氣  
持ちじーのが混じつて…、ん、んああ、  
脇い…お、おまんこみたいになつてる、脇  
汗じゅぬじゅされてどんどん脇汗出でさけや  
ますよおお～」

紗綾

「んああ、あ、あ、あ、ああ、プロデュー  
サーさん、はあ、はあ、紗綾のお、現役  
アイドルの脇汗、ねいしいですか？ ん、  
んん、Hツチで厭らしい脇の汗、臭くて蒸  
れた脇汗う、ああん、いっぱいじゅるじゅる  
してください」

紗綾

「いいですよ、あ、ああ、あ、あ、あ、やあ、私  
の脇じー一生懸命ペロペロするプロデューサー  
さん可愛いですぅ～」

紗綾

「いいですよ、氣のすむまでペロペロして…  
ん、あん、いっぱい紗綾の事味わつてください  
♪ あん、あ、あん、はあ、はあ…、ん、ん  
ああ♪ ちゅうううううううううううううううう  
♪ 脇にキスマーケークう、んん、プロデュー  
サーさんの物になつたみたいじーせうううう  
素敵ですよ、あ、あ…ああ、やり、あ  
ん♪」

紗綾

「はあ、はあ……ん んん♪ これ、私も感じ  
ちゃつて……おまん♪濡れちゃう……ん、  
やあ♪ ダメえ♪ おまん♪勝手に開いて、ライ  
ブ前に貰ったおちんぽミルク溢れちゃう♪」

紗綾

「はあ、ん、やあ♪ ダ、ダメえ♪ おちんぽミ  
ルク出ちややあなたのお♪ ん、んん♪ ううう…  
…折角のおちんぽミルクう……ライブ記念のおち  
んぽミルクう……おひひ……」

紗綾 紗綾 紗綾

「や♪ ん、あ、ふえ? プ、プロデューサーを  
ん? つて、せふつ…?」

紗綾

「んむうつ! ん、ちゅ♪ ちゅふつ! ん、ん  
♪ ん、んあつ! あ、あむつ! ジゅる♪  
ちゅふつ! ん……ちゅ♪ ちゅ……れる♪  
んん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

紗綾

「ふはあ♪ い、いきなりまたキスなんて……ん、  
それも私の脇汗と涎が混じったキスう……ん  
ん♪ ジゅるる♪ あひう♪ ハッチで濃厚な  
味い♪ え、えくく♪ 自分の脇汗を飲んで興奮  
するなんて、私も人の事言えないくらい変態さん  
ですね♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ ん♪ ねえプロデューサーをぐ♪  
またエッチしてくださじ♪ もの押し倒し  
てライブ成功の♪褒美エッチ♪ 私のおまん♪に  
おちんぽミルクのお替り注いでください♪」

紗綾

「きゃん♪ えへへ♪ 押し倒されちゃいましたあ  
♪ がっかり押されつけられて……んん♪ 身動  
き一つ取れませんよお♪」

紗綾

「はあ、ん、これから私、プロデューサーさんには  
き勝手されちゃうんですね♪ 現役アイドルの汗  
だくでくっせじおまん!」におちんぽ入れられて、  
獣みたいに犯されて、じゅぱいいつぱいエッチし  
て膣中出しされて……辱まれちゃうんですね  
♪」

紗綾

「ん、いいですよ♪ 来てください♪」のまま紗  
綾の欲しがりおまんこにプロデューサーさんの勃  
起おちんぽ来てください♪ じゅぱい私の子宮に  
おちんぽ汁注いでください♪」

紗綾

「ひゃあ♪ あ、ああ♪ ぐるり♪ おねこぽ、き  
たあああ♪ ん、んん！ ぬるりてえ♪ 全部  
入つてきましたああ♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ んん♪ えへへ♪ やつぱりお  
ちんぽ気持ちいいですう♪ ん、いいですよ?  
そのままパンパン腰動かして気持ちよくなつてく  
ださじ♪ その隙にい、私はプロデューサーさん  
のお耳をペロペロしてあげます♪」

紗綾

「ん~ちゅ~れ~……れろれろれ  
ろ~ん、ちゅ~は~ぱ~り~んちゅ~ん、ん  
ん~れろれろ~んぱ~り~ん、んん~あ  
ん~あ、あ、あああ~ねちんせお~しゅ~」  
いれすう~さあ、はあ~十四の奥されきり  
しよおねね~」

「ん、ちゅ～はあ、はあ……♪ 私も、んん♪  
負けて、られません♪ ん、ちゅ～ちゅ～私  
のちゅちやな舌で♪ プロテューサーさんも、ん  
ん♪ 感じてください♪ ん～ちゅ～れ～うう  
♪ れろれろれろれろ♪ れりゅ～じゅふ  
ふつ！ ん、ちゅ～ちゅふつ！ ジゅりゅ～じゅ  
りゅ～じゅりゅりゅりゅ～」

紗綾

「ん♪ふうー んん♪ やん♪ お耳逃げないでくだ  
せこ♪ ん♪ ちゅ♪ んあ、ちゅ、ちゅ♪ふふ♪  
おまん♪パンパンしながらあ♪ さ♪ふうー ちゅ  
♪ れるれる♪ れううううろれろれろ♪ れろ  
れろれろれろ♪ ちゅ♪ んちゅ♪ お耳犯され  
てえ♪ ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪ふうー じゅ♪  
ふ♪ふ♪」

紗綾

「ん、ちゅ……チユ、れる……れる、れる……ん  
ちゅ♪ 好きい♪ スキスキスキ♪ 大好き  
れすう♪ んちゅつ、ちゅ……ふちゅつ……れる  
れる♪ じゅる♪ れろ……れろれろれろ♪」

紗綾

「んん♪ んぱぱ♪ フサツ！ はあ、はあ♪  
え、えへへ♪ お耳舐める度におちんぽビクビク  
して♪ ん、あ、ひやん♪ はあ、ん♪ よっぽ  
ど耳を舐められるのが好きなんですね♪ は  
ハハハ、ヒトモ嬉しきです♪」

紗綾

「じゃあ、ん♪ 今度は、反対のお耳も♪ ペロ  
ペロしてあげますね♪」

紗綾

「ん、しょり、ふ……♪ あん♪ やあ♪ ダメで  
すよお♪ 今おまん！」わざわざ、あ、あう♪  
ひや、ひやんつ……♪」

紗綾

「う、ううう♪ な、な、！」わもお返しじゃ♪  
ん、はふつ！ ん、じゅりゅりゅ♪ じゅる！  
ん、んんんん♪ んあい♪ あ、あふつ！？  
ん、んんん！ ん、じゅる！ じゅふふつ！  
ん、んんう♪ れりゅれりゅ♪ じゅりゅりゅ  
りゅりゅ♪」

紗綾

「んん♪ んぱぱ♪ フサツ！ あ、ああ♪ ん  
やあ♪ おまん♪お♪ おまん！」氣持ちいいれ  
しょよお♪ んああ♪ やつ♪ あ、あん♪  
はあ、はあ……♪ プロデューカーあん♪ ん  
ん♪ 好き♪ スキスキ♪ 大好き♪」

紗綾

「はあ♪ もつとね♪ もつとおまん♪」ね♪ パン  
パン突いてえ♪ んちゅ♪ ちゅ……れる……  
れれる♪ ちゅ……ちゅふ♪ ! んん♪ れぐ  
れれるれれる♪ ちゅ♪ じいぱい♪ おまんこ  
が壊れちゃう♪ じいぱい突いてえ♪」

紗綾

「はむひ♪ ちゅ♪ ちゅふ♪ ! んん♪ ちゅ♪  
れれるれ♪ ちゅ♪ じゅりゅりゅ♪ じゅふ♪  
ふ♪ ! んふ♪ ! ちゅ♪ れるれる♪ れぐ  
れれるれれるれ♪ ふはあ♪ はあ、好  
きい♪ ちゅきじゅ♪」

紗綾

「ん、あん♪ はあ……♪ しゅきじゅ♪ プロテ  
ューサーさん♪ 大好きです♪ ちゅ♪ しゅ  
きい♪ しゅきしうきい♪ じいじゅきい♪」

紗綾

「ああ♪ おまんの母ジルクルして……えぐへ  
♪ 好きって言われるのイイんですけどねえ♪ 嬉し  
い♪ ん、やん♪ ならあ♪ もつと囁いてあげ  
ます♪」

紗綾

「プロトューサーさん♪ 好きですか んん♪  
あ、愛してます♪ んああ♪ あううう♪ ん♪  
ん、んあ♪ ちゅ♪ れれるれ♪ んちゅ♪  
あ、あああ♪ んああ♪ 好き♪ あ♪  
あうう♪ 好き好きスキスキ♪」

紗綾

「優しい所が好き♪ 笑顔が好き♪ カツコいい所  
が好き♪ ほめてくれるのが好き♪ 撫でてくれ  
るのが好き♪ 抱きしめてくれるのが好き♪」

紗綾

「ん、んああ♪ はあ、はあ……♪ 邪しい所が好  
き♪ キスしてくれるのが好き♪ エッチな所が  
好き♪ おちんぽ大きいのが好き♪ おまんこ♪ 気  
持ちよくしてくれるのが好き♪ 好き♪ 好き♪ ス  
キスキスキスキ♪ 大好きなお♪」

紗綾

「あん♪ んああ♪ 好き♪ ほんとにスキ  
♪ あ、あ、あ、あああ♪ 世界で一番好きな  
のおお♪ 大好きなおお♪ んああ♪ あ、  
あああ♪」

紗綾

「ん、んん♪ もうらぬえ♪ おまんこ♪ 気持ちよす  
ぎて……ん、んああ♪ 我慢できないです  
よおお！ お、お願ひれす！」、「のままいつ  
てえ！ わたひもおまんこ♪ イクからあ！ い、一  
緒にい！ ん、んんんん！ おまんこ♪ の中にいっ  
ぱいい！ おちんぽミルク出しちゃえええ！」

紗綾

「あ、あ、あ、あああ！！ も、もうイキましゅ！  
お、おまんこいつちやう！ 凄いのきちやう！  
んああ！ あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
あああ！！ ひい！ イ、イグ！ い、一緒に  
イグ！ おまんこイグう！ イグイグイグイグ！  
イツぐううううう！」

紗綾

「ん！ んん！ んひやああ！ あ、あ、あ  
ああ！！ や、やああ！ お、おちんぽおお！  
びゅるびゅるつてえ……んん！ しゃ！」  
しゃり、おちんぽミルクぴゅぴゅ～～って  
お、おおお、おおお、「お、イグのおおお  
イツひやつてりのおおお」

紗綾

「ひやつり、お、おおお、しゃ、しゃ！」  
よおお、おちんぽ汁の匂いがいいまだきて  
んん、すん、スンスン、すうううう  
はああ～～、お、ねほおお、イキゅうつ  
んん、おちんぽ臍由出しだれながらのおちん  
ぽ深呼吸、ヒトモ素敵でしゅううう」

紗綾

「んあ、お、ああ……、はあ、はあ、ん、ん  
ん、はふり、え、えくく、プロデ  
ュークーれあん、おちんぽミルクのお替り、あ  
りがと、れこめす、」

紗綾

「1回ド！」  
嬉しそうに嬉しそうに……ライブ成功と併せて嬉  
しそうですよお、

紗綾

「はふう、あれにして、ライブ直後でそのまま  
エッチして……くく、お互い色んなお汁でぐ  
ちょぐちょですね……」

「もうだら、せつかくですから、シャワールームで身体を洗いつこしませんか？あそーなり、密室ですし誰にも邪魔されませんよ。」

「お疲れのプロデューサーさんのお部屋中、いっぱい流してあげちゃいます。」

「えくく～♪ シヤワールームまで誰ともすれ違わなくて良かつたですね、プロデューサーさん♪」「！」までくれば密室ですし、完全防音ですから好きなだけエッチな事でありますよ♪」

「という事で、早速、私の愛液とプロデューサーさんの精液とでぐちやぐちやになつたおちんぽ♪お口でお掃除してもいいですか？」

「は、はい……お掃除フワフワって言うんですよね。そうしてあげると、男の人は喜んでくれるって友達に聞きました」

「私……まだまだ、もつと！ もつともーっとプロデューサーさんに喜んで欲しいです！ どう、でしょうか？ 私の、現役アイドルのお口♪奉仕、堪能してくれませんか？」

「ん、まあダメって言われてもしちゃいますけどね！ ん、ショット……お顔の前におちんぽを寄せて……あやつ……」

「す、す”い！ セッキあんなにしたのに、また大きくなつてます！ 私でこんなに興奮してくれるなんて……あうあうう♪ プロデューサーさんつたら私の事好きすぎですよ♪」

「すぐ綺麗にしてあげますから、リラックスしながらたっぷり楽しんでください♪」

「では、あ～むつ、んん、れろ、ぴちや！  
ひぢや、くちゅ、ちゅつぶつかゅぶ、じゅぶ  
ぶ、んづ、ぴちや、ぴちや、ぴちや、れ  
ろ、れろ、れろ、はむつ♪」

「ふああ、おひんぽの匂い、じゅるる、ん  
ん、じゅるる、ん、ちゅ、ああ、む  
わあつて蒸れてえ、すり、臭くつてえ、す  
ん、すん、ふああ、この臭さが堪らない  
んですね、ずっと嗅いでいたいれすう♪」

「ん、それにプロテーサーひやんのおひんぽか  
ら私のおまんこの中がひで……れ、れ、れ  
れれれれれ、じゅるる、ちゅぱつ、  
はあ、はあ、はあ、苦い精液の味に、甘  
じょっぱい汁の味い……ん、ん♪」

「ちゅ、ちゅ、ちゅ、あ、んちゅ  
、じゅるじゅる、ん、ん、とつてもおいしい  
♪ 私達が交わった、えっちした証い、じゅる  
る、エッチすきまう♪」

「じつくり味わつて……んん、味覚えちやいま  
すね、ちゅ、れれれれ、じゅるる、ん  
ちゅ、ちゅ、ちゅ、あ、ひ、ひ、ひ、ちゅ♪」

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

「うー、あれ？ おちんぽの先っぽから、新しいお  
汁が滲み出でてますよ？ ん、れろつ、チユ、  
ちゅ、ちゅ……」

紗綾

「それに、また硬く、大きくなつてきて……あひ、  
お口からはみだしちやう……んんう。」「うあ  
おとなしくしてくださあい。ん、くちゅう……  
ちゅふ、ふちゅ、ふちゅう、くちゅ！ あ、  
んあ、んん……あひ、んむう……ちゅうう」

紗綾

「ふふふ、完全に勃起しちゃいましたね。大丈夫ですか、せつかくですからもう一度、私のお口でリラックスして癒されてください。はむ、じゅる、じゅじゅりゅ、ちゅ、ぐちゅつ！ ぐちゅつ、ぐちゅ！」

紗綾

「ん、ん、ん、ん、ん！　んあ、舌を絡めながらあ  
……れろおつ、ぐちゅつ、ぐちゅつ、れろおー、  
ずつちゅつ！　ずつちゅつ、ずつちゅつ、ず  
ちゅつ！」

紗綾

「ん……むちゅうー、ぐちゅうー、ぐちゅうぐちゅうー  
んんんー、んうー、んうんー、はうー、  
んうあうー、あー、んむうー、ぐうちゅうー、ぐ  
ちゅうー、ぐうちゅうー、はうー、はうー、はうー、  
んむうー、ぐうちゅうー、」

紗綾

「あーーー んむンーー むハハハーーー ジゅる  
ぬハ ジゅふハ ん、ちゅハ れるれるおハ ん  
ぶつー ジゅぬハ んあハ ひゅ」  
「じゅる太くでお  
口の中のせこですハ んハ、んうハ」

紗綾

「ビクビクひて……んむハ、ん、んんハ もうびゅ  
びゅーってしたくなりまひたか?」

紗綾

「えくく……遠慮はいりませんひてももにま  
ひたよおハ わなハ んわなハ ジゅハ ジゅ  
りゅうせりせハ ちゅ、んちゅハ わたひとフ  
ロテ ノーカーひやんの母じやないれすかあハ  
い つでも、んハ 精液、出ひていいれすよハ」

紗綾

「びゅびゅーって好きなだけ出ひていいひやいハ  
じゅうせハ んちゅハ ジュふふふハ ちゅハ  
ん、んんハ ぱはつハ はあ、はあ……ハ 今だ  
けは、んハ 我慢しないで、わがままになつて  
♪」

紗綾

「紗綾の唇に、お口に、喉の奥にいつぱい出して欲  
しいですか、はむーーー ん、れろつ……れろつ、  
れろおつー ぐちゅーー ぐつちゅーー にく  
ぶつ、こゑふぶつ……ぢゑるーー ぢゑるー、  
ぢゑるぢゑる」

紗綾

紗綾 「んぐつ！？ んんツ！ ん——つ、 んんつ、  
んつんつ、 んんうつ！ .....んう！ んつ、 ん  
ん！ えふつ.....お、 んおつ！ 『ふつ！ ん、  
んんんん！？ けつ！ けほつ！ けほけ  
ほつ！」

「ん、んあつ！ けほけほつ！ しゅ、しゅ！」量  
で……ん、んん……ちょっと、多すぎるよしゅ……  
んん！ けほつ！ けほつ！」

「あ、ん、ん……っ、けほつ、けほつ……お、お口  
の中にまだいっぱい……せいひが溜まって、うま  
くひやべれまへん♪ あうう♪ これ、プロデ  
ューサーさんの大事な精液、飲んじやいますね♪  
アイドルの「っくん♪ 見ててくらひやい♪」

紗綾

「プロトユーナーさん、お口の中、見ててください。  
い。ん、れへへへへへへへへへへへへへへへへへへへ  
おちんぽミルク全部飲んじゃいましたわ。」「  
れって、愛がないとできない」とですよね。愛の  
証ですよ～。えへへ～」

「うへ、あ～！ すっかり忘れてました！ シャ、  
シャワーにしましょ～！ お掃除フュラに夢中で  
本来の目的を忘れてやつてました～！」

「ん～……ふああ～ あつたかいですね～」

「ライブレッヒチした後のシャワー……あう～う  
♪ 最高す～れもかうう～♪」

「でも、こいつはいプロトユーナーさんとヒッヂ  
て、おちんぽの匂いつけてもらつたのに、それが  
洗い流されるのは……ちょっとだけ寂しいですね  
……」

「えく～～ 大丈夫ですよね。寂しいのは本当です  
けど、私の傍にはいつもプロトユーナーさんがい  
てくれますから～」

「それにまたすぐおちんぽミルク貰えばいいだけで  
すしね～。つて、あう～う～。我ながらすう～い  
エッチな子ですよね、今の発言……」

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

「私、すっかり悪い子になっちゃいましたあ♪ え  
へへ♪ ファンの皆さんには絶対秘密の、プロデ  
ューサーさんだけが知ってる紗綾のエッチな本性  
♪ 誰にも内緒ですよ? えへへへ♪」

「ただいま戻りました～♪ って、私達しかいないんですけど♪ はあ～♪ 今日は盛りだくさんな一日でしたねー！」

「ライブして、エッチして、シャワーを浴びて♪ とんでもなく濃密で、ラブラブな一日……って、えへへ♪ それはちょっと違いますよね♪ だつて……」

「まだ今日は終わってませんもん♪ えい♪」

「えへへへ♪ プロデューサーさんって以外と軽いですね♪ 簡単に押し倒せちゃいました♪」

「はい♪ そうですよ♪ 今日はとーとんまでエッチしたい気分なんですね♪ ライブで疲れてはいますが、その分プロデューサーさんから精力をいっぱい貰つてますからね♪ プラマイープラでまだまだ元気いっぱいです♪」

「それに、今日はまだどうしてもプロデューサーさんに渡したいものがあるんですけど」

「紗綾の、男の人を見せた事のないとしても大切な所……もう一つの初めて……プロデューサーさんに見て欲しい……貰つて欲しいんですね♪」

紗綾

「ん、えへへ♪ パンツ脱いじやいました♪ どうですか？ 見えますか？ 私の……現役アイドル紗綾の……お尻のあくな♪」

紗綾

「小さい頃お母さんにしか見せたことのない、正真正銘の処女アナル♪ すつ「く恥ずかしいですけど、いつかプロデューサーさんにあげたいなと思つて、毎日綺麗にしてたんです♪」

紗綾

「今日は私の夢が叶つた特別な夜ですし、捧げるなら今しかないかなつて思つて……ど、どうですか？ 私のアナル、貰つてくれますか？」

紗綾

「は、はい♪ 嬉しいですう♪ 正直引かれるかなつて思つてたんですけど……あううう♪ アナル処女を捧げられることがこんなに嬉しいなんて♪ えへへ♪ 大好きです♪ プロデューサーさん♪」

紗綾

「それじゃあ、このまま私が上になつておちんぽ入れますから、じつと見てくださいね♪」

紗綾

「ん、まずはおまんこから垂れてる愛液でお尻の穴を濡らして……ひやう！？ あ、い、いえ！ 何でもないです！ ちょっとビックリしてお尻ヒクヒクただけですから」

紗綾

「よくお尻の穴に塗り込んでえ……ん、しょ……んしょ……指先を入れて……むにゅむにゅ……むにゅむにゅ……はうう♪ お尻の皺が開いたり縮んだりい♪ ああん♪ エッチすぎますよお♪」

紗綾 「んっしょ♪ んっしょ……つと……はい♪ 愛液ローション準備オッケーです♪ ではおちんぽ入れますね♪」

紗綾 「ん、んん!? ん！ 「れ、キツイイ！ ん！ で、でもお……うう！ 大好きなおちんぽだからあ♪ ん！ んん！ ゆっくりなら……ん！ んぐうううつ！ ひやわああ……！」

紗綾 「んひい！ う、ううう……♪ はあ、はあ♪ んん♪ あうあううう♪ お、お尻……おちんぽ、入つたあ♪」

紗綾 「え、えへへへへ♪ よ、良かつたあ♪ こ、これでえ♪ 私の全部……お口もおまん」もお尻の穴も、大好きな人に捧げられましたあ♪ んあああ♪ 凄いですう♪ 凄く幸せですよお♪」

紗綾 「はあ、はあ♪ プ、プロデューサーさん♪ どうですか？ 現役アイドルのアナルの入れ心地はどう世間では清純天使で通つてゐる、私の、んん♪ 紗綾の一番エッチで厭らしい、禁断の穴、ですよお？ 気持ちいいですか？」

紗綾

「はあ、んん♪ プロデューサーさんだけのエッチ穴です♪ つて、えくへ♪ そんな凝視されちゃうと流石に照れちゃいますよお♪」

紗綾

「つて、はわわ！ 」、「これ！ 騎乗位の体勢でアナルに入れると、おまんこ丸見えになつて……あううう♪ これは想像以上に恥ずかしいですう……」

紗綾

「ん、んん♪ でも、これなら、ん♪ おちんぽでアナル、視線でおまんこを堪能できましね♪ ほら、」、「やつておまんこを……くぱあく♪ えへへへ♪ おまんこハート型に開いちやいまして♪」

紗綾

「千宮の奥からおまんこ汁溢れて、恥ずかしすぎておかしくなつたんですけど……今日は私が！」奉仕する夜ですから、好きなだけ私のアナルとおまんこ、楽しんでくださいね♪」

紗綾

「ん♪ んん♪ あつ！ んああ♪ あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、ああ♪ ううう♪ 」、「これは、あん♪ 想像以上に気持ちいいですう♪ あ、ああ♪ ひやつ♪ あ、ああん♪ はあ、はあ♪ あううう♪ ん、んん♪ はつ、あ……はあつ……」

…「ううう♪ んん♪」

紗綾

「想像だと、んん♪ もうと、痛いと思つてしま  
た、けどお♪ あん♪ 全然そんな事なくつてえ  
♪ むしろ♪ あううう♪ アナル気持ちいいで  
すうう♪ ん、んん♪」

紗綾

「これも、愛のおかげなんじょうか？ ん、んん  
♪ 私のアナルも、大好きなおちんぽ欲しがつて  
たみたいに、んん♪ きゅうきゅう吸い付いてえ  
♪ お、おおおお♪ ん、ひい♪ お、お、お、  
おおお♪ ら、らめれすう♪ 「れ、吸い付きす  
ぎて、刺激強い！ ん！ んん！」

紗綾

「ひやああ！！ そ、それえ！ おちんぽパンパン  
されるとカリがあ！ あ、あ、あ、あ、あ、あ、  
あ、ああ♪ おちんぽのカリがお尻の入口捲つ  
てえ♪ 」「これ、変えられちゃう♪ おちんぽ  
の形にお尻変えられちゃいましゅう♪」

紗綾

「はっ！ はっ！ はっ！ はひゅ！ んあっ！  
や、やああ♪ お、おちんぽしゅ♪ 」「おち  
んぽお♪ 気持ち良くてえ♪ アナルぶひゅぶ  
ひゅ喜んじますよおお♪」

紗綾

「こ、ここお♪ んあ♪ あ、ああ……♪ お尻  
の穴あ♪ エッチの為の穴じゃないのにい♪  
ん、んん♪ はうう♪ 感じちゃつてえ♪ 「ん  
な下品なアイドルう♪ んああ♪ らめえ♪  
アイドル失格になつちやうう♪ ダメになつひや  
ううう♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ んん♪ 「、」とは、ん♪  
2人だけの、やん♪ 秘密♪ ですよ♪ ん、  
あう♪ アイドルのアナルが弱い、なんてえ♪  
とんでもないスキャンダル、なんですからあ  
♪」

紗綾

「ん、ん♪ あ♪ あ、あ、あ♪ お、  
おちんぽ、そんな奥まで突いて！ は♪ は、  
はう♪ ん、んんん♪ ん♪  
ああ♪ お、お尻が持ち上がって、ふああ！  
腰、浮いちやいます！ ん、んんん！」

紗綾

「は♪ は♪ は♪ は♪ は♪ ん♪  
やあ！ お、おまん♪ も気持ちよすぎてパクパク  
開いて……！ ん♪ やん♪ だ、だめ！  
アナル突かれながらおまん♪ 吹いちやう！ おま  
んこイッひやううう……！」

紗綾

「ん♪ ん♪ だ、だめえ！ ほ、本当にイ  
グ！ 」「のままプロデューサーさんの顔にお  
まんこ汁吹いちやう！ や、やらあ！ 恥ずかし  
いのにい！！ ん、んん！！ が、我慢できな  
い！ おまん♪ 我慢できないのおお！！」

紗綾

「あ、あ、あ、ああ！！ アナルセックスしながらおまんこイグ！ おまん♪ イッひやうう！  
アナルイグ！ おまん♪ イグウ！ アナルで、ん  
んん！！ イッぐうううう……！」

紗綾

「ひやつりりりりり… ん、やああああ… お  
まん」いくううううう！ おまん」がりお潮吹  
いじえ！ ん、んんん！ プロデューサーさんの  
顔にかかるましゅう♪ おつほおお♪ お、  
おおお♪ 恥ずかしいさびお♪ でも気持ちいい  
のおお♪」

紗綾

「ん、んんん♪ んあああ♪ プロデューサーをあ  
ん♪ 飲んでくらしゃじい♪ おまん」のお潮全  
部飲んでえ♪ ん、んあああ♪ はあ、はあ：  
…♪ じょろろろろ♪ ついでいっぽい♪ は  
いりり♪ 噴水みたいに出ひやつてええ♪」

紗綾

「はあ、はあ♪ せつう♪ んん♪ やあ♪ い  
ぐ♪ く飲んでくれて…嬉しいです♪ プロデ  
ューサーさん♪ 紗綾の味い♪ 覚えてくだれ  
いい♪」

紗綾

「ん、はあ、はあ……♪ ん、あ、あん♪ は  
ふうう……だ、大分落ち着いてきた……かな…  
…つて、え、えくく♪ プロデューサーさんのお  
顔、オマンコ汁でびちょびちょですね♪」

紗綾

「今お顔舐めて綺麗にしてあげますからね♪ はあ  
～む♪ ちゅりゅ♪ ちゅ♪ れ～～～♪ れ  
ろれろれろれろ♪ ん、んん♪ ちゅ♪ ちゅる  
る♪ ちゅぱつ♪ はあ、はあ……♪ えくく♪  
といても口シチな味♪」

紗綾

「ん、ちゅ♪ れろれろ……んん♪ 私が、じゅる  
る♪ ん~ちゅ♪ 綺麗にい♪ じゅる♪ じゅ  
るるるるるるる♪ じゅぱり! はあ、ん♪  
れ~れ~れ~れ~れ~れ~れ~れ~れ~れ~れ~れ~れ~  
ひう~?」

紗綾

「んにやあ~? プ、プロテ ューサーひゃん!?  
きゅ、急にまたそんな! あ、やつ! だ、だ  
め! イつたばかりなのにまたアナル責められた  
ら! お、お、おお、お、お、お、お、お、~!」

紗綾

「お、お尻いい! せう! お、おおお♪  
こ、これりやめえ♪ 捲れひやう♪ アナル裏が  
えつちゃいましょう♪ お尻の穴おかひくなつ  
ひやいましゅううう♪」

紗綾

「んやああ! あ、あ、あああ!! プ、プロテ  
ユーサーさん!! 」「これ以上は、ん、んん!  
」「怖いでしゅ! 戻つてこれなくなりそう  
で、あ、ああ! 」「怖くなつちやいます  
よおお!!!」

紗綾

「つ~、んむう!~ ん、ん~う! ちゅ♪  
ちゅぶつ♪ ん~う♪ ちゅ……れる……ちゅ  
……はっぷ♪ ん、んんんん!~ ちゅ♪  
ちゅぶつ! れろれろ……れろれろれろれろ♪  
んちゅ♪」

紗綾

「んん♪ はっふ♪ やあん♪ プロデューサーさん♪ もっと強く抱きしめてください！ 私がどこか行っちゃわなじょうにい！ ん、んん♪ アナルエッチでおかしくならなじょうにい…」

紗綾

「はむりー！ んん♪ ちゅ♪ ちゅ～～♪ ちゅ…ちゅ♪ はふつ！ んん♪ スキイ♪ スキスキスキスキー♪ 大好きれすう♪ ん、んん！ ちゅぱつ！ ん～～ちゅ♪ れるれる…愛ひてまひゅう～♪ ん、んん♪」

紗綾

「もつろおお♪ ちゅ♪ ちゅ♪ もつろ一つにい♪ れ～～♪ れるるれるれる♪ んちゅ♪ おいっぱいも濡れてなくなつちやうべりじい… … んちゅ♪ 強く抱いてぐらひやいいい♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅうう♪」

紗綾

「んちゅ♪ れろれろ♪ ちゅ♪ ちゅ♪ ふはあつ！ あ、あ、あ、あああ！！ んん♪ ああ♪ お、おおお♪ おちんぽイイ♪ おちんぽ凄くいいれすう♪ おちんぽお♪ プロデューサーさんのおちんぽおお♪」

紗綾

「んん！ お、おちんぽおお♪ おちんぽおちんぽおちんぽおちんぽおお♪ 大好きなおちんぽお♪ いっぱい欲しいんれすう♪ お、おおおお！！ おちんぽ好きい！！ おちんぽおちんぽおお♪」

♪

紗綾

「ナルセックスでおちんぽの形覚えさせて  
ええ！！ 私のおまんこもお尻もお！！ はあ、  
はあ……♪ 全部プロデューサーさんのおちんぽ  
専用にい♪ 」のおちんぽしか入らないようにし  
てえ♪ プロデューサーさんのおちんぽ大好きな  
アイドルにしてくらしゃいい♪」

紗綾

「ん、んあああ♪ お尻の穴でおちんぽ膨らん  
でええ♪ はあ、はあ……♪ ひやううう！  
イ、いつてくらひやい♪ 」のままお尻にい♪  
アイドルの下品なピンクナルにい♪ 精液いつ  
ぱい♪ プロデューサーさんのおちんぽミルクで  
お尻おまんこ孕ませてくだひやいい♪」

紗綾

「んあああ♪ さあ！ おちんぽひゅつひゅ！ おち  
んぽひゅつひゅう！ おちんぽひゅつひゅ！  
おちんぽひゅつひゅううううう！」

紗綾

「ひやああああ…！ 出ましたあああ♪ おちんぽ  
ミルクうう♪ お尻にいい♪ アイドルのお尻の  
中にいい♪ あ、あ、ああああ♪ んお  
おおおお♪」

紗綾

「はい、はい、はい……はひゅううう♪ お、  
おおおお……♪ お尻いい♪ きもひいの  
がああ……♪ ふあい溢れてええ♪ あううう…  
…あうあううう……♪ お、おおおお♪ お尻い  
♪ 気持ちいいれしゃうううう♪」

紗綾

「あ、やん！ ダ、ダメ……聞かないでください！  
こんな、下品なお尻の音……や、や、ひあ……恥  
ずかしいですよおお……♪」

紗綾

「はあ、はあ……ん、んん、はあ、はあ、はあ：  
…はふううう…♪ ！」 「れえ♪ 本当に、ん  
ん♪ 凄いエッチ、でしたあ……♪ まさかお尻  
の穴にするだけで「こんなにも気持ちいいなんて…  
…♪ ちょっと病みつきになつちゃうやうですう  
♪」

紗綾

「えくく♪ プロデューカーさんもお疲れ様でした  
♪ わかがにもつねわんぽも限界みたいで、  
ちつちやくなつちやいましたね♪」

紗綾

「でも、またお掃除フリラしたら大きくなつたりし  
て……♪ つい、えくく♪ 「冗談ですよ冗談♪  
これ以上エッチしたら、気持ちよすぎて、私の方  
が先に失神しちゃうかもしれませんし♪」

紗綾

「今日は十分すぎるほど沢山エッチしましたからね  
♪ 一回のエッチ回数なら今まで最高記録です  
よ♪ もうと♪」

紗綾

「えくく♪ もう考える必要ぱり今日は特別な一  
日でしたね♪ 朝から晩までずっとプロデ  
ューサーさんに独り占められてた気分です♪」

紗綾

「でもいいんですよ。ライブみたいなイベント中はみんなのアイドルですけど。それ以外の私はプロデューサーさんだけの紗綾なんですから、好きだけ独り占ぬしてくださいね♪」

「こやふう、プロデューサーさん、だうい  
好きい、えくへん♪」

紗綾

「ふえええ！……え、エッチな事を耳元で囁かれながらシロシロして欲しい……って……あうう……あうあうあううう……急にそんな事言われてもお……」

「え？　あ、いや……まあ別に嫌じやないですし、珍しくプロデューサーさんからのおねだりですもんね……はい、分かりました♪　私に出来る事なら何でもしてあげちゃいます！」

「それじゃお早速……おまかせ！」つちのお耳から…  
…」

「お・ち・ん・ぽ♪　おちんぽおちんぽお♪　つて、わわ！　♪、プロデューサーさん！？　体跳ねちゃつて……だ、大丈夫ですか？」

「あ、喜んでくれてるだけ？　えへへ♪　嬉しいです♪　ならこの調子で続けますね？」

「お・ち・ん・ぽ♪　おちんぽ♪　おちんぽ♪　おちんぽお♪　おちんぽシロシロ♪　おちんぽシロシロ♪　ヒツチなおちんぽ♪　厭らしいおちんぽ♪　おちんぽおちんぽ♪　可愛いおちんぽ♪」

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

紗綾

「はあ、はあ……ん、おちんぽお、おちん  
ぽおちんぽお、私の……私だけのおちんぽお  
スキィ、スキスキい、おちんぽ大好きい  
♪」

紗綾

「プロトユーナーさんのおちんぽお、逞しいおち  
んぽお、はあ、はあ、あん、おいしいおち  
んぽ、デザートおちんぽお♪」

紗綾

「おちんぽお、おちんぽおちんぽお、おちんぽ  
大好きい、おちんぽおちんぽおちんぽおちん  
ぽおお、んん、しゃきい、大好きですう、  
ん、ちゅ～ちゅ～」

紗綾

「ん？ ふえ？ もうと厭らしく囁つて欲しい…  
ですか？ わ、分かりました……アイドルが絶対  
口にしないような、エッチな言葉……囁つちゃい  
ますね？」

紗綾

「はあ、はあ……んん、ち・ん・ぽ、ちんぽ  
ちんぽ、ちんぽ、ちんぽ、ちんぽ、ち  
んぽお♪」

紗綾

「ん、んん、これえ、何だか言う度に興奮して  
きちゃいますう……、はううう、はあ、はあ  
……、んん、あうう、ち・ん・ぽお♪」

紗綾

「ちんぽ、ちんぽお、ちんぽちんぽお、ちん  
ぽちんぽちんぽちんぽお、ちんぽちんぽちんぽ  
ちんぽお♪」

紗綾

「びちょびちょかわせへ くわくわくわくわくわくわく  
HロHロかわせへ ふひふひひひほおへ」

紗綾

「ちんせしロシロヘ カンセシロシロおへ ちんせ  
へ ちんせねへ かわせへ カンセスネねへ」

紗綾

「お・ま・ん・！」へ ねまん！」ねまん！」ね  
まん！」ねへ ねまん！」へ ねまん！」へ ねまん！」  
へ ねまん！」ねへ」

紗綾

「アイドルねまん！」へ エルエルねまん！」へ スケ  
べねまん！」へ シルシリねまん！」ねへ」

紗綾

「はあ、はあ……へ んへ ねまん！」へ ねまん  
！」へ ねまん！」へ ねまん！」ねへ」

紗綾

「ん、ああんへ ねまん！」たぶねたぶうせじ出でれ  
ちやじますうへ おひらへ あうあうりりりへ  
ただ話してねださで！」んなHシチな気分になつ  
ちやうなんて……」

紗綾

「ん、んんへ ねまん！」ねへ ねまん！」ね  
まん！」ねまん！」ねへ んへ ねまん！」ねまん  
！」ねへ ねまん！」ねまん！」ねへ」

紗綾

「ほーりへ えいりどすかへ プロトゴーカーさん  
のおちんせしロシロヘながらおまん！」へ疊ぐ  
とねへ 本物にねまん！」が濡れてきてしまへ Hシ  
チな気分になつておかやうへですへ」

紗綾

「はふううううう、 ハシチなおまぐ」おふく、 おまん  
「濡らしながらあふ、 んんふ、 おちんぽシコシ  
「おふく、 おちんぽシコシコおおふ、 んんふ、 おち  
んぽおおふ、 おちんぽおちんぽおふ」

紗綾

「はあ、 はあ……じつぱじ感じてくだせふ、 おち  
んぽシコシコれでえふ、 ん、 んんふ、 おちん  
ぽおふ、 おちんぽおちんぽおおふ、 おちん  
ぽおおおふ」

紗綾

「好きですふ、 おちんぽ大好きですうふ、 おまん」  
「におちんぽ欲しくて欲しくてえふ、 ちんぽおおふ  
「ちんぽ欲しいですよおおふ、 ちんぽちんぽちん  
ぽちんぽおおおふ」

紗綾

「大好きなちんぽから出るプロデューサーさんの孕  
ませミルクうふ、 おかえりミルクうふ、 おちんぽ  
汁うふ、 ちんぽ汁うふ」

紗綾

「やわやわお出ちやじますか？ シコシコれでちん  
ぽ汁ひゅひゅへへへ出しちゃじますか？」

紗綾

「はいふ、 構いませんよ、 遠慮せざー」のめめ出し  
わやつてくだせじふ、 もよはじふ」

紗綾

「ひゅひゅ、 ひゅひゅひゅ、 ひゅひゅ  
ひゅひゅひゅ、 ひゅひゅひゅ」

紗綾

「はへへへへへへ、 プロデューサーさんふ、 お疲れ  
様でしたふふ」

「どうでしたか？ 現役アイドルの囁き淫語手口キ  
は？ 気に入ってくれましたか？」

「もしまたして欲しくなつたらいつでも囁いてくだ  
さいね♪ ん♪ ちゅ♪」

- ◇トラック7：おまけ しゅきしゅきループ
- ◇トラック8：おまけ 左耳舐めループ
- ◇トラック9：おまけ 右耳舐めループ
- ◇トラック10：おまけ両耳舐めループ
- ◇トラック11：おまけ おかんぽ淫語塗れの右耳舐めループ
- ◇トラック12：おまけ おまんこ淫語塗れの左耳舐めループ
- ◇トラック13：おまけ おちゃんぽおまんこ淫語塗れの両耳舐めループ
- ◇トラック14：おまけ しゅきしゅき両耳舐め3WAYループ
- ◇トラック15：おまけ しゅきしゅき淫語両耳舐め3WAYループ